

How to 農ボラ!! ~園地での活動について~

信州の農家を救おう!



分科会3

② 木の撤去をする。
樹木の周り、2Mを目安に。
母木や枝をキズつけないように!
キズが菌など侵入するのを防止しよう。
果樹も生かすのが目的。やさしく作業。

- ① ユーゴの木のまわりの薄さの回収
- 地面に流れついで
- 木や枝にひかかると
- (手届く範囲で! 高い所は)

農業支援連携

③ 除去した土砂は、園内に位置。
分別は9種類!
支柱や収穫コンテナ、シート(ブルーシート)などの農業資材は処分して!!
園主とスタッフが確認して処分

質問、疑問、何かあれば、本部までお電話を!! 080-8497-5842

日本有数のりんごの産地 長野市長沼地区

長沼地区を南北に貫く国道18号 通称「アップルライン」

約300人のりんご生産農家

長野県有数のりんご生産地域
として、地域の主要産業

専業農家も多く、宅地と農地
が近接している。



出荷間近のりんごが泥に浸かり出荷できなくなった…



「家も泥だらけ」 「畑も泥だらけ」

1年間の収入源が1日にして
絶たれる喪失感

暮らしの場とともに仕事も失う。

住宅の早期復旧のために泥だし

主に住宅の復旧活動をおこなう災害 V C

農地の泥だしをお願いしたい住民

畑だって大事な場所
大事に育てたりんごを早く触りたい

畑だって大事な場所

大事に育てたりんごを早く触りたい

「農地の廃土はやります」 by行政

けど、いつ始まるかわからない…

ボランティアが

集まる今だから

「早く畑にもボランティアが
入ってほしい」

泥で埋まったりんごの樹

樹が呼吸できなくて
枯れてしまう危惧

「泥をどけて呼吸できるように」

じゃあ

災害 V C と違う仕組みで

ボランティアの力で

りんごの樹を助けよう！

信州農業復興再生ボランティアプロジェクト（農ボラ） ～信州の農家を救おう！～

<信州農業再生復興ボランティアプロジェクト実行委員会>

〔共同代表〕 J A ながの代表理事組合長
J A グリーン長野代表理事組合長
長野県NPOセンター代表理事

〔構成団体〕 J A ながの
J A グリーン長野
長野県災害時支援ネットワーク

県NPOセンター、県社会福祉協議会、県生活協同組合連合会
県長寿社会開発センター、日本青年会議所北陸信越地区長野ブ
ロック協議会日本労働組合総連合会長野県連合会、県共同募金会

長野県社会福祉協議会（まちづくりボランティアセンター）
株式会社 長印

長沼地区等の地元林檎生産組合（長野市りんごVP）
小布施町日本笑顔プロジェクト（小布施町りんごVP）

〔協力団体〕 長野県、長野市、長野市社会福祉協議会、ICAN

〔事務局〕 長野県災害時支援ネットワーク（県災害対策本部内）



わかりやすい流れ

誰でもできる仕組みを考える

～農ボラ活動までの流れ～

J AがV C機能を行うことは初めて。シンプルで誰でも運営できる機能を目指す。

○ニーズ（りんご畑の場所と活動内容）の把握

土砂撤去・流れ着いた廃棄物の撤去を必要とするりんご生産者の相談を受け付け、ボランティア活動が必要な内容を確認する。

- ・農家さんから聞き取り→園地の場所と活動内容を把握
- ・J Aスタッフがマッチング調整



○活動内容の確認

依頼農家さんへ連絡し、活動が終了したかどうか確認
専門農家さんと打合せしながら、次の日の活動を確認

- ・J Aスタッフが電話で確認
- ・夕方、専門農家が集まる場で確認



○ボランティア受付・オリエンテーション

ボランティア受付・チーム編成を経て、ボランティア活動の留意事項と園地での活動の流れを説明

- ・ボランティアは受付カード記入
- ・5人1チームをつくりリーダーが管理



○マッチング・活動場所へ送り出し

園地までの案内を依頼農家が案内

- ・拠点に農家さんがお迎え→ボランティアを案内し活動内容を説明



○活動終了後のお出迎え

活動が終了したボランティアの報告と活動後のケア

- ・チームリーダーが報告
- ・炊き出しによる活動づくり



～農ボラ活動までの流れ～

○ニーズ（りんご畑の場所と活動内容）の把握

土砂撤去・流れ着いた廃棄物の撤去を必要とするりんご生産者の相談を受け付け、ボランティア活動が必要な内容を確認する。

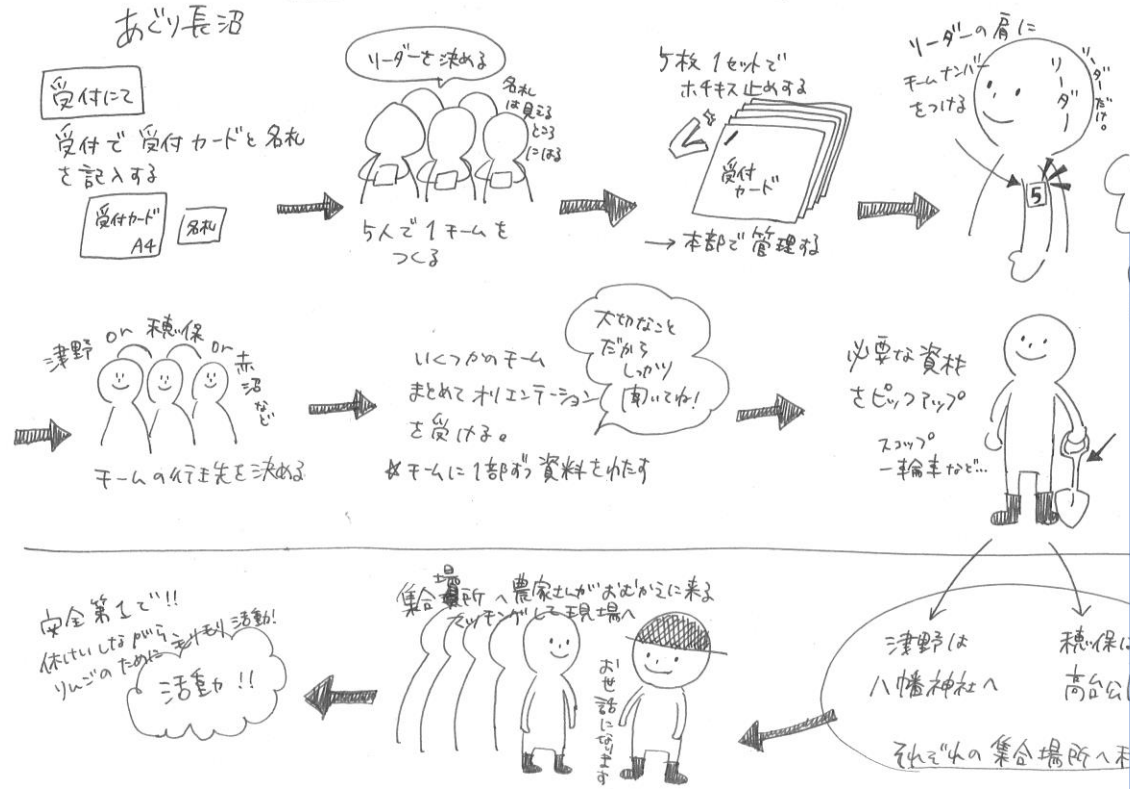
- ・ 農家さんから聞き取り→園地の場所と活動内容を把握
- ・ J Aスタッフがマッチング調整



畑は「表札」がない！

～農ボラ活動までの流れ～

ボランティア受付の流れ

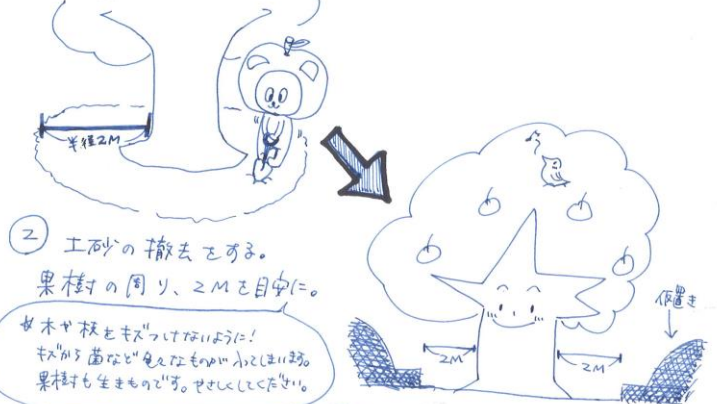


○ボランティア受付・オリエンテーション

ボランティア受付・チーム編成を経て、ボランティア活動の留意事項と園地での活動の流れを説明

- ・ボランティアは受付カード記入
- ・5人1チームをつくりリーダーが管理

How to 農ボラ!! ～園地での活動について～

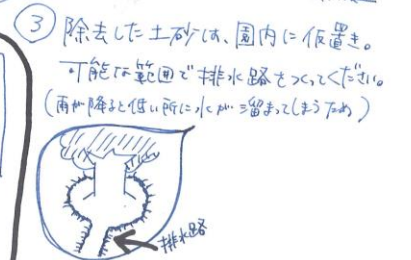


- ① 1m以上の木のまわりの漂流物を回収する。
 - ・地面に流れてきたもの
 - ・木や枝にひかかっているもの
 - (お届く範囲で高い所はやりません。)

分別は9種類!

- ・タヤ・金属くず・家電
- ・不燃物・可燃物・木くず・墨じり紙
- ・土砂・泥じりかき・危険物

★ 支柱や収穫コンテナ・シート(ブルーシート)などの農業資材は(処分場まで!!)園主さまやスタッフに確認してください



説明はイラストで!

質問、疑問、何かあれば、本部までお電話!! 080-8497-5842

～農ボラ活動までの流れ～



農家さんがお迎え
→園地へ案内
→活動内容を説明



○マッチング・活動場所へ送り出し

園地までの案内を依頼農家が案内

・拠点に農家さんがお迎え→ボランティアを案内し
活動内容を説明



活動内容

→園地の流入物除去

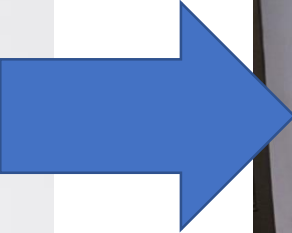
→樹の根回りの泥だし



～農ボラ活動までの流れ～

わかりやすい管理

チームNo.	人数	チームNo.	人数	チームNo.	人数	チームNo.	人数	チームNo.	人数
1-1	5	2- 7 ⁵	5	3-6	8	4-6	5		
1-2	5	2-6	5	3-7	5	4-7	5		
1-3	5	2-7	5	3-8	5	4-8	5		
1-4	5	2-8	5	3-9	5	5-1	5		
1-5	5	2-9	3	3-10	5	5-2	5		
1-6	5	3-1	6 ⁷	4-1	6	5-3	5		
2-1	5	3-2	5	4-2	5	6-1	5 ⁶		
2-2	6	3-3	7	4-3	5				
2-3	5	3-4	6	4-4	5				
2-4	6	3-5	6	4-5	6				
				合計		人			




チームNo.	人数	チームNo.	人数	チームNo.	人数	チームNo.	人数	チームNo.	人数
1-1	5	2- 7 ⁵	5	3-6	8	4-6	5		
1-2	5	2-6	5	3-7	5	4-7	5		
1-3	5	2-7	5	3-8	5	4-8	5		
1-4	5	2-8	5	3-9	5	5-1	5		
1-5	5	2-9	3	3-10	5	5-2	5		
1-6	5	3-1	6 ⁷	4-1	6	5-3	5		
2-1	5	3-2	5	4-2	5	6-1	5 ⁶		
2-2	6	3-3	7	4-3	5				
2-3	5	3-4	6	4-4	5				
2-4	6	3-5	6	4-5	6				
				合計		人			

○活動終了後のお出迎え

活動が終了したボランティアの報告と活動後のケア

- ・チームリーダーが報告
- ・炊き出しによる活動づくり



農ボラ活動までの流れ

○活動内容の確認

依頼農家さんへ連絡し、活動が終了したかどうか確認
専業農家さんと打合せしながら、次の日の活動を確認

- ・JAスタッフが電話で確認
- ・夕方、専業農家が集まる場で確認

想像を遥かに超えて進む活動



A group of people, likely farmers and volunteers, are gathered in a large, dimly lit room, possibly a warehouse or processing facility. In the background, a man in a red vest and light blue pants stands on a small wooden stage, addressing the group. The room is filled with stacks of white boxes or bags. The overall atmosphere is one of a community meeting or training session.

J Aの本気

りんご農家の本気

ボランティアの思い

各団体の持つネットワークと協力体制



そして…

本格的に動き始めた行政の廃土事業

～行政・建設業者・地元農家が連携した廃土作業に向けた話し合い～

信州農業再生復興ボランティアプロジェクト(第1期)の今後の活動についてのご案内

【ありがとうございました】

台風19号で甚大な被害を受けた長野市長沼地区、豊野地区の農家の皆様は、農地に流れ着いた大量の泥や災害漂流物が、発災1ヶ月を過ぎても撤去が進んでいない状況を憂っていました。

その声を受け、信州農業再生復興ボランティアプロジェクト(以下、「プロジェクト」)では、ボランティア・NPOの力をお借りして、行政の災害復旧事業が本格的に実施される 前の緊急的な対応として、同地区の「災害漂流物の片付け」「果樹の根回りの泥だし」をプロジェクトの使命に、農家の皆さん・農協・ボランティア・NPOなどが連携し、11月14日のトライアル開始以降、第1期の活動を進めてきました。

本プロジェクトでは、延べ6,515人(12月17日時点)のボランティアの皆さんにご参加いただき、甚大な被害を受けた農家の方々からのご相談に対応してきました。この間、農地にまとめた災害漂流物の一時集積場が決まり、12月4日より軽トラックボランティアによる漂流物の回収・搬出も本プロジェクトで進めてきました。また、地元農家・行政・建設業者等が連携して、行政の災害復旧事業による農地の土砂撤去がスタートし、本格的な農地の排土作業が開始されています。

同地区の「災害漂流物の片付け」「果樹の根回りの泥だし」という、当初の活動のニーズも現在に至るまでに概ね解消され、農地の復旧・復興の道筋が、プロジェクトを進めてきたこの1ヶ月で開きはじめています。

以上のことから、プロジェクト活動当初の使命に対する活動状況と農地排土に向けた行政の動きと併せて、厳冬期に向かう現地の気温低下や降雪などボランティア活動に対する厳しさも増していることから、プロジェクト第1期を終了する判断をしました。プロジェクト第2期の活動につきましては、改めてホームページ・Facebookなどを通じてご案内をいたします。

これまでプロジェクトにご参加いただきました県内外のボランティアの皆様、運営にご協力頂きました皆様へ多大なる御礼を申し上げますとともに、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

農ボラに延べ6,500人以上が参加 (注)

期日	人数
11.14	422
11.15	—
11.16	467
11.17	249
11.18	31
11.19	161
11.20	197
11.21	248
11.22	236
11.23	465
11.24	374
11.25	69
11.26	171
11.27	259

期日	人数
11.28	212
11.29	203
11.30	292
12.01	231
12.02	—
12.03	112
12.04	109
12.05	107
12.06	109
12.07	269
12.08	272
12.09	216
12.10	120
12.11	134

期日	人数
12.12	116
12.13	219
12.14	390
12.15	—
12.16	40
12.17	15
※「—」は雨天中止など ※一般ボランティア受付は12/14で終了 ※12/16・17は軽トラックボランティアのみ受付	



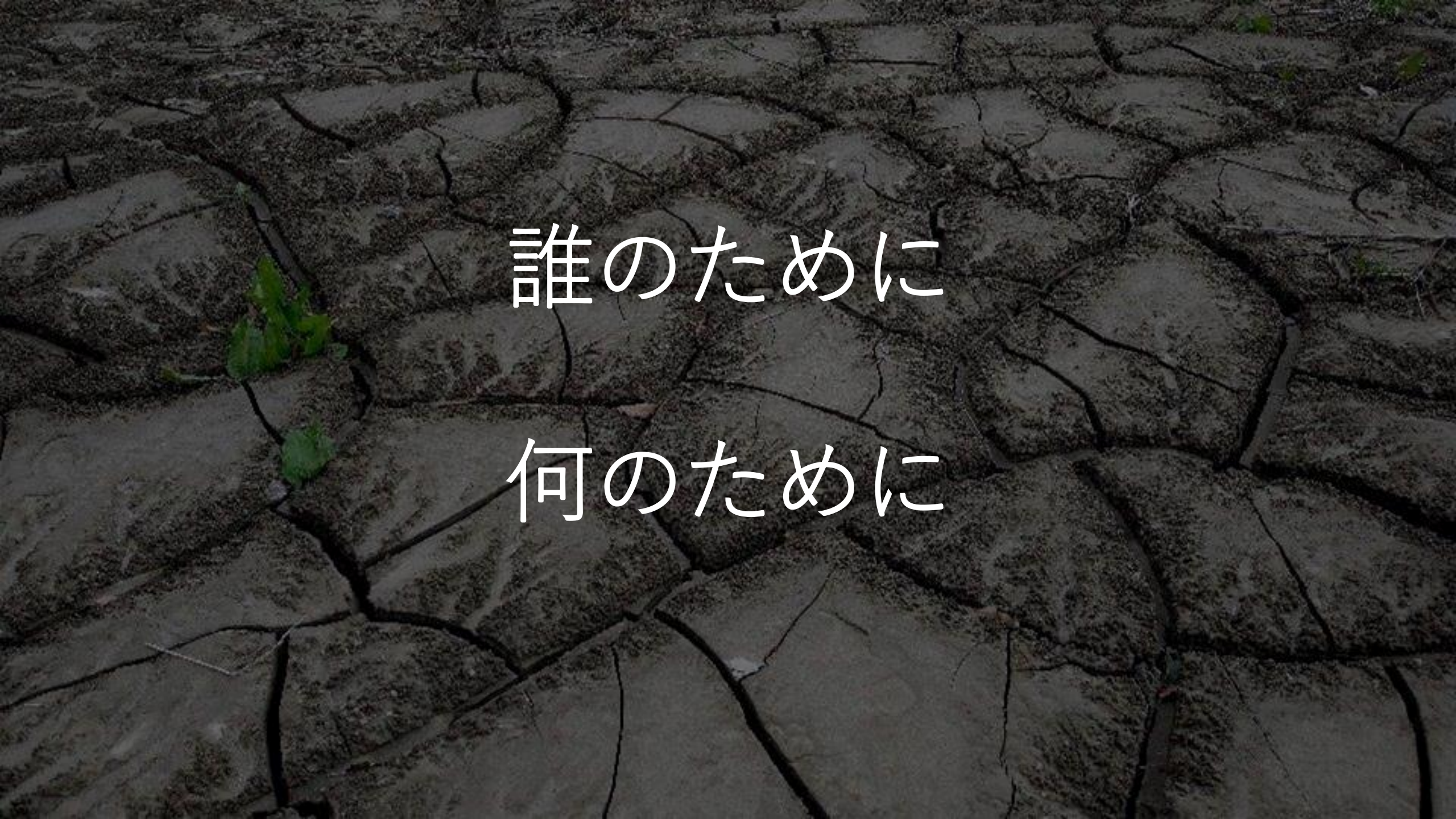
(注) 長野市での農ボラ参加者は31日で計6,515人

- 長野市以外の農ボラ参加者
- ・小布施町 (2日で806名)
 - ・中野市 (9日で688名)
 - ・須坂市 (1日で515名)

A blue Kobelco mini excavator is positioned in a vineyard. The background shows rows of grapevines supported by a metal trellis system. The ground is covered with dark mulch. The entire image has a semi-transparent blue overlay. White Japanese text is overlaid on the image.

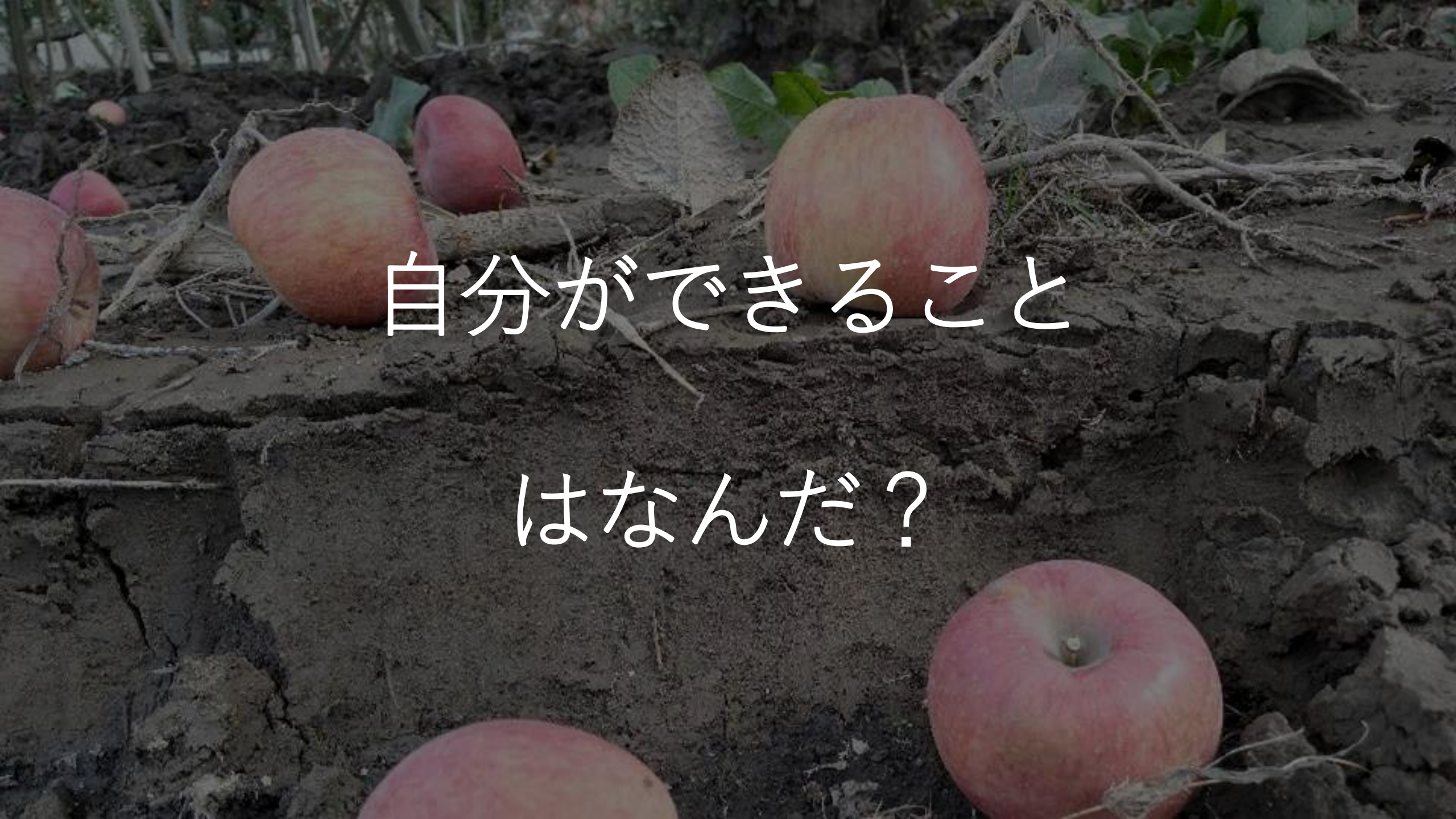
ここからが本番

まだまだ続く復興への道のり



誰のために

何のために

A photograph of several red apples lying on dark, cracked soil in a garden setting. The apples are scattered across the frame, with some in the foreground and others in the background. The soil is dark and shows signs of being dry, with visible cracks. The background is slightly blurred, showing some green foliage and wooden stakes.

自分ができると

はなんだ？



りんご農家の再生が
地域の再生につながる
ことを信じて…